

中間報告書

補助事業名	ハッカーズから学ぶ芸術経営学 -『つくり手』『つなぎ手』『つかい手』のクロスオーバーによる複合的なアートマネジメント人材の育成事業-							
事業期間	令和5年4月1日～令和6年2月29日			大学名	富山大学			
実施概要	芸術文化を構成する役割には、創作者である『つくり手』、享受者である『つかい手』、この2つをマネジメントし繋げる『つなぎ手』の3つがある。従来より、アーティストなどの『つくり手』と、キュレーターなどの『つなぎ手』は、それぞれの専門性に特化することで分業化を進めてきた。しかし昨今では、Webやアートコレクティブをはじめとする新しい情報発信のシステムが出現してきたことにより、『つくり手』『つなぎ手』双方の素養を有する人材が求められつつある。本事業では、アーティストやキュレーターが双方の理論や方法論を互いに学ぶクロスオーバー型の教育プログラムを実施する。実施プログラムでは、『つくり手』『つなぎ手』双方の視点を持ち合わせた表現者たちを、文化芸術分野における「ハッカー」に見立て、ハッカーの如く、高度な手法や思想で課題をクリアする彼ら(＝ハッカーズ)の独自の実践と方法論を学ぶことで、これからのアートマネジメント(芸術経営学)のあり方を考察する。『つくり手』『つなぎ手』の細分化された役割を再統合することで、既存の枠組みにとられない複合的でボーダレスな次世代型アートマネジメント人材の育成を目指す。							
	※ 詳細(講座名、講師名、コマ数、公演名、会場名、公演回数等)は下部の各活動欄に記入してください。							
共催者名・後援者名・協賛者名等とその役割	【協力】 砺波市教育委員会、砺波市立砺波郷土資料館：地域連携協力 一般社団法人たびのひと：展示施設貸出、資材貸出協力							
全活動合計	計画	実績	差	計画と実績の差異理由				
来場者	10	5	-5	講座開催に係る広報のタイミングが遅れ、事前周知が行き届いていなかった事が主な要因であると考えられる。また、実施講座は受講生に旅費負担が発生する講座であったが、費用に対する講座内容(目的)がやや不明瞭であった事や、開催日時が平日かつ大学夏季休業期間であった事も主な理由として考えられる。				
育成対象者	10	5	-5					
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業職員	その他
	人数	4	0	0	0	0	1	0
育成対象者具体的な職業	既存のアートの仕組みや役割について問題意識を持つ学生・社会人・アーティスト・キュレーター・研究者・アーキビスト、新しい情報発信プラットフォームを求めている人、マネジメントや経営に興味のあるアート関係者、美術館関係者、行政、報道関係者、ジャーナリスト□							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	①『つくり手』『つなぎ手』『つかい手』の複合的な視点からアートマネジメントができる人材。 ②既存のシステムや制度に批評的意識を持ちながら新しい価値を提案し、またその評価ができる人材。 ③セルフキュレーションができる人材。 ④グローバルな視点から異なる文化やジャンルを理解し、発信できる人材。 ⑤新しいツールやメディア環境を適切に活用し、効果的な情報発信を行える人材。 ⑥深い洞察力に基づき、実現する力を有する人材。□				本年度前期(～9月)は1つ目の講座を実施した段階であり、事業全体における達成状況を評価できる段階ではないが、後期に予定している各講座の実施に向けて、当初想定したアートマネジメント人材育成目標を達成するための学びの要素を取り入れながらプログラムの準備・具体化を進めている。本学部では、文化芸術を社会に展開していく上で、『つくり手』『つなぎ手』『つかい手』の3つの素養を兼ね備えた人材育成を掲げており、様々な領域の教員・学生がお互いに協力しながら、分野間の垣根を超えた融合教育を推進している。本プログラムでは、本学部の特徴である領域横断型カリキュラムと連動させ、アートマネジメントを専門とする人と専門としない人が一緒にアートマネジメントについて考え展開する機会を創出する(①)。また、従来の制度や枠にとられない表現活動を行うゲスト講師らの取り組みを知ることを通して、新しい視点から文化芸術の創生を担う人材の育成が期待される(②③⑤⑥)。国際的な人材育成に関しては、現時点では未達成となるが、後期に行う活動において国際的なギャラリスト等による講座を実施し、グローバルな視点や異文化との関わり方について取り上げる予定である(④)。			
事業の社会的な役割、効果	申請時				達成状況			
	様々な学術分野において専門領域が細分化されていく中、より俯瞰した学際的な視点から物事を理解することの重要性が見直されつつある。アートマネジメントの関連分野においても、専門化すべき部分と学際的な視野から捉えるべき部分があると考えられる。本事業では、分担された役割(ここでは『つくり手』『つなぎ手』『つかい手』を指す)の再統合を試みることで、変化する市場や技術、情報環境、グローバル化などに適応可能な次世代型アートマネジメント人材に育成につながる事が期待される。また、『つくり手』のセルフキュレーションやセルフプロデュースの概念をアートマネジメントの考え方に導入することで、アートの普及のあり方に対して、新たなバリエーションを創出することに繋がる。□				本年度前期(～9月)は1つ目の講座を実施した段階であり、事業全体における達成状況を評価できる段階ではないが、後期に予定している講座も含めると公務員、福祉関係、一般企業、地域住民など、幅広い属性の参加者があった。美術教育を出発点としない人たちがアートマネジメントの考え方に触れる機会を提供することで、文化芸術と社会の接点の広がりが期待できる。			
事業に関して学会発表、メディアでの掲載実績や予定	本年度は、事業報告冊子をWEBや紙媒体にて作成、出版する予定。また、本プログラムにおいて得られた知見(特に『つくり手』を中心としたセルフキュレーション手法)を元に、次年度以降、美術科教育学会や日本アートマネジメント学会等での学会発表予定。							
事業で得た課題や経験、今後の活用方法	現時点で実施済みの講座が少なく、評価対象となる実績が不足しているため未評価であるが、得られた知見は、プログラムと関連した授業等にフィードバックしていくと共に、活動3で実施予定の『つくり手』がつくる新しい美術館-廃棄施設を活用した文化施設の実験的運用と再生(仮)への活用を計画している。							
担当者所属・氏名	芸術系総務・学務課長 竹内 由利	電話	0766-25-9111□					
		E-mail	tiikiko@adm.u-toyama.ac.jp□					

活動①

講座名 企画名	ハッカーズから学ぶ芸術経営学 特別講座『つなぎ手』が『つくり手』になる』□ レクチャー&フィールドワーク① 講師：セーラちゃん氏							
講師名 出演者名	コーディネーター：西島治樹(富山大学芸術文化学部教授)、佐藤弘隆(富山大学芸術文化学部助教) 講師：セーラちゃん(まぼろし博覧会館長)□							
日時	(1)令和5年9月24日(日) 14:00-18:00 (2)令和5年9月25日(月) 9:30-18:30(休憩1時間) (3)11月下旬予定(継続中)			コマ数	(1) 2コマ(4時間/1コマ2時間) (2) 4コマ(8時間/1コマ2時間) (3) 継続中			
会場・教室	まぼろし博覧会(静岡県伊東市)				計画	実績	差	
				来場者	10	5	-5	
				育成対象者	10	5	-5	
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	4					1	
実施概要	本プログラムは、『つなぎ手』が『つくり手』になる』を題目に掲げ、出版社の社長・編集長(『つなぎ手』)でありながら、静岡県伊東市の私設博物館「まぼろし博覧会」の館長を務め、自ら表現者(『つくり手』)として活動するセーラちゃん氏を招聘した講座である。本講座では、同館において自ら企画、運営に携わりながら独自の世界観を表現するセーラちゃん氏のセルフマネジメント手法や、従来の作品展示の枠組みに捉われない独自の収集・展示方法に着目する。『つなぎ手』『つくり手』の両面を持つ同氏のレクチャーを通じて、『つなぎ手』『つくり手』という役割の垣根を越え、既存の制度では成立しない新たな文化芸術の創生、あるいはその可能性について探ることを目的としている。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	『つなぎ手』『つくり手』の垣根を越えた表現活動を通して、異なる文化やジャンルへの理解を深め、アートキュレーションの手法を幅広い視点から捉え直す力を身につける。マスメディアやジャーナリズムとアートとの関係について考え、社会との繋がりを意識した問題提起力・訴求力のある人材を育成する。				まぼろし博覧会のフィールドワーク及びセーラちゃん氏へのインタビュー取材を通して『つなぎ手』『つくり手』双方の考え方や、バランス、実践方法について紐解いた。受講生は、学芸員志望の学部生、絵画・彫刻専攻の大学院生、外資系コンサルティング業界に勤める社会人などからなり、幅広い属性の参加者と知見を共有し、従来の制度とは異なる文化芸術の可能性について議論することができた。			
	【活動で得た課題や経験】 従来の制度上の博物館では、資料の「収集」「保存」「調査研究」「展示」を行うが、本講義を通して、一般的な博物館施設とは異なる運営、展示方法、コンセプトについて、実際の現場を見ながら学び、知見を深めた。 【今後の活用予定】 撮影した展示風景やインタビュー記録はデジタルアーカイブとして保存し、フィールドワークに参加できなかった受講希望生のための学習資料として、共有していく予定である。また、11月に実施予定の講座2では、セーラちゃん氏と協働で、使われなくなった博物館施設の活用方法を探る実践的ワークショップを実施する。							